

令和3年度全国学力・学習状況調査 新潟市の結果

学校支援課

平均正答率

学年	教科	新潟市	全国(公立)	全国との差
小学校 6年生	国語	66.4%	64.7%	+1.7p
	算数	70.9%	70.2%	+0.7p
中学校 3年生	国語	66.5%	64.6%	+1.9p
	数学	57.3%	57.2%	+0.1p

※令和元年度より，知識と活用を一体的に問う調査問題になりました。

○全体概要

- *新潟市の平均正答率は，小学校，中学校とも，全ての教科で，全国の平均正答率を上回りました。
- *全国の平均正答率との差は，0.1ポイントから1.9ポイントの範囲で，ほぼ全国の正答状況と同じです。

各教科の分析

【小学校国語について】

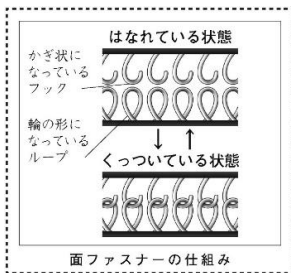
- ◎・・・全国の平均正答率よりも3ポイント以上上回った設問
- △・・・全国の平均正答率を上回ったが、まだ課題のある設問
- ▼・・・全国の平均正答率を下回った設問
- ⇒・・・授業改善の視点

※数値は全国の平均正答率との差

△大問2三

＜思考力, 判断力, 表現力等 C読むこと＞

◇目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付ける。



「面ファスナーに関する資料」を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く。

・・・・・・・・・・+0.5

⇒図表やグラフを含む文章を読む学習では、文章中に用いられる図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにして、文章と図表などの関係を捉えて読むことができるようにすることが大切である。

▼大問2四

＜思考力, 判断力, 表現力等 C読むこと＞

◇目的を意識して、中心となる語や文章を見付けて要約する。

「面ファスナーに関する資料」を読み、面ファスナーが、宇宙ステーションの中でどのように使われているかをまとめて書く。

・・・・・・・・・・-1.1

⇒文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することが大切である。面ファスナーのよさや宇宙ステーションの中での使われ方について書かれた部分を中心に読み、「しっかりくっつき簡単にはがすことができる」「無重力状態のため、ものが浮かぶ」といった必要な情報を見付け、指定された字数内でまとめることが求められる。学習では、同じ文章を読んでも、読み手の目的によって内容の中心となる語や文が異なるため、要約した文章が異なるものになることを理解する必要がある。

◎大問3一

＜思考力, 判断力, 表現力等 B書くこと＞

◇自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。1.・・・ +5.8

丸山さんが考えた【文章の下書き】の構成についての説明で、適切なものを選択する。

▼大問3三(1)ウ

＜知識及び技能 言葉の特徴や使い方に関する事項＞

◇学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。・・・・・・・・・・-0.8

「また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた場所に置かれず、すみのほうにつみ重ねられています」

ウ積

⇒漢字の学習指導では、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのため今回の問題のように、自分が書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるようにすることが大切である。

◎大問3三(2)イ

＜知識及び技能 言葉の特徴や使い方に関する事項＞

◇文の中における主語と述語との関係を捉える。

丸山さんの【文章の下書き】の中の_____部イで_____の部分「残されています」の主語として適切なものを選ぶ。・・・・・・・・・・+3.2

イ「時にはみんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています」

【小学校算数について】

◎・・・全国の平均正答率よりも3ポイント以上上回った設問

△・・・全国の平均正答率を上回ったが、まだ課題のある設問

▼・・・全国の平均正答率を下回った設問

⇒・・・授業改善の視点

※数値は全国の平均正答率との差

△大問1 (3) <変化と関係 日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること>

◇速さを求める除法の式と商の意味を理解している。・・・+0.2

道のりと時間		
	道のり (m)	時間 (分)
㊦ インターネット	1600	20
㊧ たけるさんたち	500	7

どちらのほうが速いかを調べるために、下の計算をしました。

㊦ インターネット $1600 \div 20 = 80$

㊧ たけるさんたち $500 \div 7 = 71.4 \dots$

上の計算からどのようなことがわかりますか。

1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、アのほうが速い。

⇒どちらが速いかを比べる際には、単位量を道のり又は時間で比べる場合があり、どちらを単位量として設定しているかについて考え、速さを求める除法の式と商の意味を理解できることが重要である。

授業では異なる二つの量の割合として捉える数量を用いて、目的に応じてその大きさを比べ、表現できるようにすることが大切である。例えば、 $1600 \div 20$ (道のり) \div (時間) と捉え、1分間あたりに進む道のりを求めていることを理解し、丁寧に話し合う学習場面を構成することも大事である。

▼大問2 (1)

<図形>

◇三角形の面積の求め方について理解している。

・・・-2.5

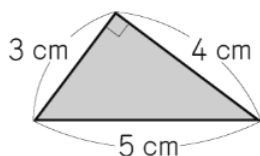


図1

図1の直角三角形の面積を求める式と答えを書く。

誤答例 20%

式 $3 \times 4 \times 5 \div 2$ 答え 無解答

$3 \times 4 \times 5$

⇒図形のどこの長さに着目すると求積できるかを理解できるようにすることが大切である。また、方眼紙なども活用し、底辺と高さの関係を理解し、必要な情報を選び出す力を育てることが求められる。

△大問2 (3)

<図形>

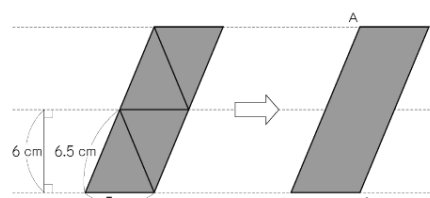
◇二等辺三角形を4つ使って作った平行四辺形ABCD

の面積を求める(解答は記述式)。・・・+0.7

誤答例 高さを6.5 cmの二つ分として求積し、誤答又は無解答 13.3%

⇒図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方を捉える

ことができるようにすることが大切である。学習では、求積しようとする図形の辺の長さや位置関係を捉え、面積の求め方について筋道を立てて、説明する経験を多くすることが大切である。



△大問3 (4)

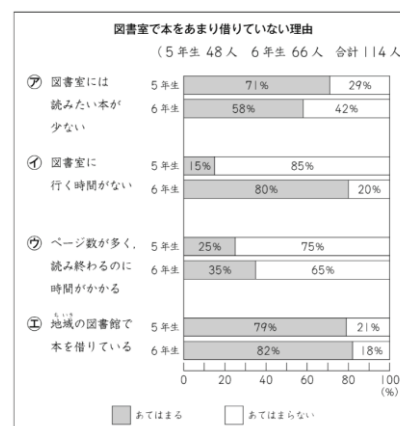
<データの活用>

◇帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合が記述できる。・・・+1.0

誤答例 エを選択 14.5% 無解答 10.3%

⇒「あてはまる」と答えた人の割合を読み取り、帯グラフからデータの特徴や傾向を読み取るために、帯グラフのどの部分に着目したのかなどを説明できるようにすることが大切である。

さらに、学習では自分たちが出した結論について、多面的に捉え考察できるようにすることも大切である。



【中学校国語について】

- ◎・・・全国の平均正答率よりも3ポイント以上上回った設問
- △・・・全国の平均正答率を上回ったが、まだ課題のある設問
- ▼・・・全国の平均正答率を下回った設問
- ⇒・・・授業改善の視点

※数値は全国の平均正答率との差

△大問2一

＜書くこと＞

- ◇書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。・・・+1.1
- ⇒自分が書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、これらの表現が自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し、誤解のない表現、より効果的な表現にしていく力を育てることが大切である。

△大問3四

＜読むこと＞

- ◇「吾輩は猫である」で文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。
・・・・・・・・・・ +2.0

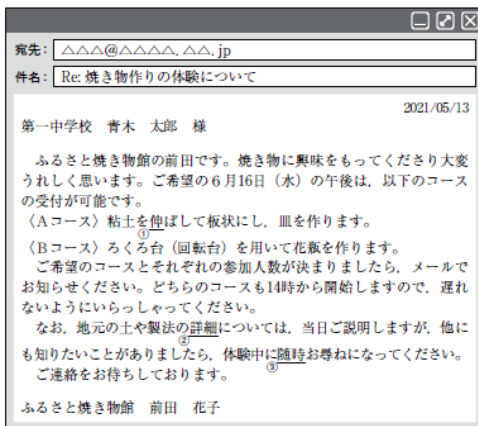
⇒文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりする学習経験が大切である。その上で改めて自分の文章をどのように捉えて精査・解釈したかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするのが重要である。

中学教師の吾沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽なもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。

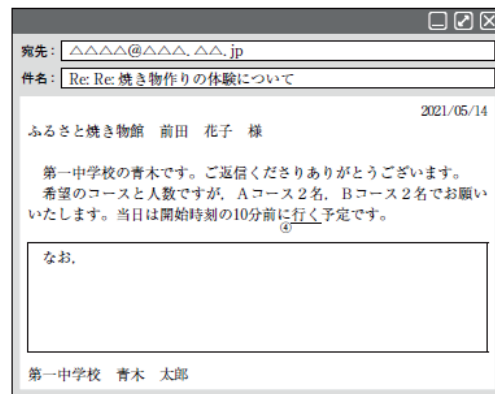
◎大問4一②

＜伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項＞

- ◇文脈に即して漢字を正しく読む。「詳細」（「しょうさい」）・・・+3.0



担当者からの返信メール



青木さんが送信する「二回目のメールの下書き」

◎大問4三

＜伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項＞

- ◇相手や場に応じて敬語を適切に使う。・・・・・・・・+6.6
- 「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選ぶ。

◎大問4四

＜書くこと＞

- ◇伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。・・・・・・・・+6.7
- 2回目のメールの下書きの の部分に、確認事項として「持ち物と服装について」と「写真撮影の許可について」相手に失礼のないように書く。

【中学校数学について】

◎・・・全国の平均正答率よりも5ポイント以上上回った設問

△・・・全国の平均正答率を上回ったが、まだ課題のある設問

▼・・・全国の平均正答率を下回った設問

⇒・・・授業改善の視点

※数値は全国の平均正答率との差

▼大問2

＜数と式＞

◇具体的な場面で、一元一次方程式を作ることができる。・・・ -1.5

② ノート2冊と800円の筆箱1個を買ったときの代金と、ノート4冊と500円のシャープペンシル1本を買ったときの代金は等しくなります。ノート1冊の値段を求めるために、ノート1冊の値段を x 円として、方程式をつくりなさい。ただし、つくった方程式を解く必要はありません。

⇒代金を表した2つの式

$2x + 800$ と $4x + 500$ が等しい関係にあることから、代

金を表した二つの式を等号で結んで方程式に表せることを確認する場面を設定する。そして、線分図などに整理して数量の関係を捉える活動が大切である。

▼大問6 (3)

＜数と式＞

◇数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。・・・ -0.6

図2

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

⇒事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明できるようにする。

本設問を使って授業を行う際には、自然数を五つずつに区切った表を六つずつに区切った表に変えて、四角で囲んだ四つの数の和は、2の倍数になることを見出し、どんな数の2倍であるかを説明する活動を設定する。そして、四角で囲んだ四つの数を、 n 、 $n+1$ 、 $n+6$ 、 $n+7$ と表したことから、 $2n+7$ は四角で囲んだ数とどのような関係かを考え、四角で囲んだ数のうち n と $n+7$ の和、 $n+1$ 、 $n+6$ の和で表されると捉えることが大切である。

▼大問7 (2)

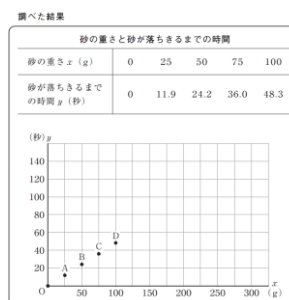
＜関数＞

◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。

・・・ -0.5

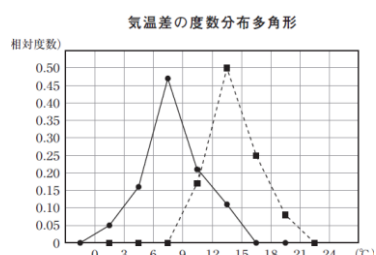
⇒伴って変わる二つの数量として「砂の重さ」と「砂が落ちる切るまでの時間」に着目し、実験で得られたデータを座標平面や表に表し、表されたグラフや表のもつ性質を見出す活動を取り入れる。

その際、表や数値を用いて求めた割合が一定であると考えたり、座標平面上に表された点が原点を通る一直線上にあると考えたりするなど、理想化したり、単純化したりすることで、二つの数量の関係を比例とみなして問題を解決することが大切である。



▼大問8 (3)

＜資料の活用＞



◇データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる。・・・ -0.5

⇒授業では、二つの度数分布多角形の形や位置関係に着目して、二つの度数分布多角形の特徴について話し合う活動が考えられる。そこで、見出した特徴から結論を言うためにふさわしい根拠となるものを取り上げ、判断したこととその理由について説明する活動を取り入れることが考えられる。